

2022 年 2 月 4 日
千代田化工建設株式会社
総務部 IR・広報・CSR セクション

2022 年 3 月期第 3 四半期決算説明会発表要旨 (2022 年 2 月 2 日開催)

2022年2月2日に開催致しました2022年3月期第3四半期決算説明会（電話会議）における弊社の発表内容の要旨を以下にまとめております。

I. 決算概要(P2)

1. ハイライト(P3)

- 完成工事高、営業利益、経常利益は通期予想に対し順調に進捗。
- 米国テキサス州大型エチレンプラントは契約納期より 1 ヶ月早い完工を達成。
- その他遂行中案件も現下の状況を鑑み、リスク感度を高めて着実に進捗。
- 脱炭素、ライフサイエンス、デジタルトランスフォーメーションといった成長分野への取り組みも加速。

2. 損益計算書(P4)

- 完成工事高は 2,171 億円、通期予想に対する進捗率(以下、進捗率)72%。
- 完成工事総利益は 169 億円、進捗率は 65%。完成工事総利益率は 7.8%で、前年同期比 1.4 ポイント改善。
- 販売費・一般管理費は 86 億円、前年同期比 8 億円減少、進捗率は 57%。
- 営業利益は 83 億円、経常利益は 88 億円、いずれも前年同期比から増加、進捗率は営業利益 75%、経常利益 97%。
- 純利益は△137 億円。第 1 四半期において、完工済みのイクシス LNG プロジェクトで、長年続いてきた顧客との係争を和解で決着することを前提に、特別損失 204 億円を計上したこと

による。顧客との和解は10月に成立、和解成立に伴う追加損失はなし。第2、3四半期合計で35億円の純利益を計上。

3. 利益増減分析(P5)

- 完工総利益169億円は前年同期比14億円の増加。事業分野別では、エネルギー分野115億円、地球環境分野54億円。完工総利益の増加は地球環境分野の収益改善が寄与、特に医薬・ライフサイエンス等新規事業分野が順調に伸びている。
- 販売費・一般管理費は前年同期比8億円減少。
- この結果、営業利益は83億円、前年同期比22億円増加。

4. バランスシート(P6)

- 総資産は2021年3月末3,296億円から12月末3,441億円に145億円増加。既存案件の工事進捗に伴い、資産項目で主に現金・預金等が減少する一方、カタールNFE LNGなど新規受注案件の進捗に伴い、JV案件における現預金の当社持分であるJV持分資産が増加。
- 自己資本は152億円、2021年3月末比212億円減少。第1四半期のイクシスLNGプロジェクトに関わる特別損失計上に因る。第2、3四半期で純利益35億円の計上により、自己資本は2021年6月末124億円から28億円改善。

5. 受注高・受注残高(P7)

- 受注高はエネルギー分野366億円、地球環境分野3,564億円、合計3,930億円、通期予想に対し131%の進捗率。地球環境分野の受注高が大きくなっており、主としてインドネシア銅製錬プロジェクトと医薬・ライフサイエンス分野。
- 受注残高はエネルギー分野9,098億円、地球環境分野4,125億円、合計1兆3,223億円。主な案件は、エネルギー分野では、カタールNFE LNG、米国ゴールデンパスLNG、インドネシアタンゲーLNG。地球環境分野では、インドネシア銅製錬、国内ワクチン原薬製造設備、蓄電池システム。

6. 付表(P8~P10)

- 完成工事高(P8)、受注高(P9)、受注残高(P10)の分野別、地域別の内訳を掲載。説明は割愛。

Ⅱ. 成長戦略トピックス(P11)

1. テキサス・エチレン(P12)

- 2018年5月受注。年産180万トンの世界最大規模のエチレンプラントを米国テキサス州にフルモジュールで建設。シェールガスに含まれるエタンを原料とする世界最大級の石油化学コンビレックス。
- 難易度の高いプロジェクトを、顧客のExxonMobilとSABIC、パートナーの米国Kiewit、モジュールヤード他と密に連携し、早期完工を達成。ExxonMobilから高い評価を受けた。
- 製造されるエチレンは、隣接するポリエチレンプラント、モノエチレングリコールプラントに供給される。ポリエチレンは掲載写真上部に写る鉄道で、モノエチレングリコールはパイプラインで出荷される。

2. 脱炭素(P13)

- 1月18日、インドネシアの国営石油会社プルタミナとネットゼロ社会の実現に向け、脱炭素分野での共同技術開発・応用に関する覚書を締結。
- 当社とプルタミナはCO₂排出量削減に向けた新エネルギー、再生可能エネルギーの技術開発、CO₂の分離・回収・有効利用・貯蔵、水素製造に関する共同研究を実施する。
- 当社は1980年代初頭からプルタミナ向けに、カリマンタン島のボンタン、スマトラ島のアルンで複数のLNG液化プラント、付帯設備の設計・調達・建設(EPC)業務を遂行。引き続き脱炭素社会の実現に向けプルタミナと協力していく。

3. 水素(P14)

- ENEOS株式会社、クイーンズランド工科大学(オーストラリア)との産学連携による技術検証に参画。
- オーストラリアで太陽光発電による電力を用いて、水とトルエンから直接メチルシクロヘキサン

(MCH)を製造し(直接電解合成技術)、日本へ輸送後、水素を取り出して精製し、燃料電池車に充填、走行させるという、オーストラリア産 CO₂ フリー水素サプライチェーンの世界初の実証実験に成功。

- 当社は、独自技術により開発した脱水素反応装置と触媒を使用し、非常に高い収率で水素生成する脱水素反応技術により、MCH から水素を取り出し精製する工程を担った。
- 直接電解合成技術による設備の簡素化で水素製造コストの削減が可能。

4. アンモニア(P15)

- 東京電力ホールディングス株式会社、株式会社 JERA と共同で、アンモニア製造新触媒の開発・技術実証を開始。
- 火力発電等で燃料として使用されるアンモニアの利用拡大に向け、製造コストの低減実現のため、アンモニア製造における新触媒をコアとする国産技術を開発する。
- 既存のアンモニア製造法であるハーバーボッシュ法よりも低温低圧下でアンモニアを製造する日本独自の製造プロセスを構築し、製造コストの低減を目指す。
- 本件は国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)のグリーンイノベーション基金事業に採択された。期間は 10 年間(2021 年度~2030 年度)、総事業費約 240 億円規模。

5. ライフサイエンス(P16)

- シオノギファーマ株式会社が推進する、世界初の原薬・中間体の連続生産受託事業に参画。
- 医薬品業界の生産方法は従来「バッチ方式」が主流。当社が石油化学分野で培ってきた「連続生産技術」を医薬品分野で実装化し、省スペース化や開発期間の短縮によるコストの低減、安全性・品質の向上に寄与し、医薬品業界に水平展開していく。
- 当社は創業以来 60 年以上にわたり医薬品プラントに関わり、620 件以上の実績を持つ。今後もマーケットの拡大が予想される医薬・ライフサイエンス分野に注力する。

6. デジタルトランスフォーメーション(P17)

- プロジェクト遂行管理の精緻化・高度化のために開発し、適用している Chiyoda AWP についての説明。(AWP: Advanced Work Packaging)
- Chiyoda AWP は、工事作業の場所・量をワークパッケージで定義し、それぞれの工事に必要な施工図と3Dモデル・データ、機器・資材の手配状況を可視化するもの。コスト・スケジュールの予測精度を上げ、現場における手待ちや手戻りなどの無駄を防止することにより、納期遅延の防止、コスト削減が可能。
- Chiyoda AWP は、カタール NFE LNG プロジェクト、インドネシア銅製錬プロジェクトで本格的に適用。

Ⅲ. 主要遂行中案件(P18)

1. 主要遂行中案件(エネルギー分野)(P19)

- 各案件とも概ね順調に進捗。
- カタール NFE LNG において、顧客・コントラクター双方の運転担当・設計担当が一堂に会し、プラント運転時における安全性を検証する HAZOP Study を予定よりも早い 2021 年 11 月に完了。新型コロナ感染症拡大の状況下にあっても、カタール・ドーハと当社本社のある横浜をオンラインで結び効率良くミーティングを進めたとともに、顧客から当社のこれまでのパフォーマンスが評価されたことによる。

2. 主要遂行中案件(地球環境分野)(P20)

- 各案件とも順調に進捗。
- 掲載写真は北海道北部風力送電株式会社向け蓄電池システム。世界最大級 720MWh の蓄電システムであり、1 年後の完工を目指して順調に遂行中。

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。